



発行所
安芸郡芸西村
芸西病院
TEL 0887 (33) 3833
発行責任者
岩村 久
http://okura-kai.com/
geisei/




新任のあいさつ
精神科医師
船 楓 紀 也

はじめまして、令和元年7月より勤務をしている船楓紀也と申します。6月まで勤務をされていた大畑貴裕先生の後任として、大阪にある関西医科大学より赴任致しました。金曜日の精神科外来を担当させて頂いております。

簡単ではありますが、私の略歴を紹介させて頂きます。京都市出身で、生家は賀茂川上流、上賀茂神社の程近くになります。洛星高等学校を卒業後、関西医科大学医学部に入学し、平成27年卒業後、関西医科大学附属病院にて初期臨床研修を終えました。その後は、関西医科大学精神神経科学教室に入局をし、大学病院と滋賀県にある精神科単科病院での勤務を主に行っていました。精神科一般の診療をさせて頂いておりますが、大学病院内では、終末期医療に関わり、緩和ケアチームの医師と

して活動をしておりました。終末期せん妄や病名告知後の不安抑うつ症状、麻酔科医師、看護師、薬剤師と連携を行いながらの疼痛管理を専門としておりました。精神科医師として、更なる研鑽を積むために、今回、高知県・芸西病院に赴任をさせて頂いた所存です。

芸西病院には長きに渡って、関西医科大学精神神経科学教室から医師が赴任しております。関西医科大学は大阪府北部に所在し、人口約100万人の北河内医療圏の中心的医療を担当しております。大都市圏の病院では病院機能分化が進んでおり、全人的医療を1つの病院で完結することは現実として難しい状況となっております。その中で、精神科医療の特性上、急性期から慢性期まで長きに渡って関わる必要があると考えております。芸西病院では、地域医療の特性

を理解しながら、全人的医療を学ばせて頂きたいです。また、私事ではありますが、大阪での勤務時代は少し過労気味であり、「〇〇病院で外来をしているから今日は〇曜日か…」と、曜日感覚もズレてしまうようなこともありました。高知県に赴任してから勤務後の時間がゆっくりと流れ、美味しい魚とお酒を楽しむことができいております。それらを糧に赴任期間中も精進させて頂きます。ご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、今後とも何卒宜しくお願い致します。

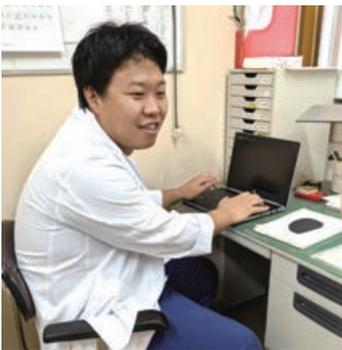


外来診察担当医

令和元年7月1日～

	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	山崎 (第1週)	岩崎 (第3週)	八木	清藤 (第1・3週)	山崎	八木	大西 (第1・3・5週)	山崎	山崎	麻生	休診	
	八木 (第2・4・5週)		八木 (第2・4・5週)	八木	八木	八木 (第2・4週)	八木	山崎	山崎	山崎	休診	
精神科		岩村	岩村	岩村	藤戸良輔	戎	三宅	三宅	船楓	戎	休診	
	戎											

芸西病院



やわらかい京都なまりの診察では、患者さんから笑顔がこぼれます

インフルエンザの季節です

当院での予防接種は10月1日(火) スタート

(小児の予防接種は行っておりません)



高知県下では例年より早く流行期に入りました。芸西村でもすでにインフルエンザが発生しています。ワクチンを接種して抗体ができるのに約2週間かかるため、できるだけ早めの予防接種をお願いいたします。

令和元年度 永年勤続表彰式



この度は勤続10年表彰を頂き、有難う御座いました。大先輩方に並んで、私も芸西病院で過ごした10年間を少し振り返ってみたいと思います。入職1年目の事は今でもはっきり覚えていて、病院忘年会の抽選会で1等(32型液晶TV)が当たり、翌日からたくさんの職員さんに「TV頂戴!!」と廊下ですれ違

う度に言われ、新人の私には大変風当たりが強かった記憶があります(笑)。そのTVも我が家の寝室の片隅で勤続10年目を迎えていますが、もちろん今でも現役です!

23歳で入職した私は、結婚、3人の子宝に恵まれる、マイホームの購入、両親の死など、たくさんの経験を経て現在に至ります。そのような、長い人生の中の10年という大切な1コマを共に過ごしてきた芸西病院には大変感謝しています。今後、亡き母からの教訓である「目配り・気配り・心配り」を胸に、そして、芸西病院で出会った人

達との出会いや別れを大切にしながら、地域の方に信頼されるリハビリを提供して参りますので、これからもどうぞ宜しくお願い致します。



令和元年7月24日、心待ちにしていた日がやってきました。勤続20年は、私の中で唯一誇れるものです。平成11年1月1日、右も左も分からない一からのスタートでした。新人研修で「一粒のみずぎの花になれたらいいな...」と思いました。しかし、途中何度か心が折れ、枯れかけ

たこともありました。そんな時周りのスタッフの皆様、患者様、入居者様に支えていただき、なんとか私なりに働くことができました。ありがとうございました。ありがとうございます。

たこともありました。そんな時周りのスタッフの皆様、患者様、入居者様に支えていただき、なんとか私なりに働くことができました。ありがとうございました。ありがとうございます。

たくさんの人達に助けをもらいながら、芸西病院で働けたことは、とても幸せなことだと思います。感謝です。これからも「一期一笑」を忘れず、出会いを大切に笑顔で働けますように...。



芸西病院へ就職し、早40年以上となりました。子供を連れての通勤は大変でしたがその子供たちも40歳を過ぎました。私自身も誕生日が来ると64歳。今は孫たちの成長と自分の趣味(コンサート)に行くことです。誰の?か(ヒミツ)を楽しむために仕

事をしております。3年前の手術後より、少し歩きにくくなってはいますが脳はフル回転中!と自分では思っています。あと何年働けるかわかりませんが、(神様のみが知っている...)日数を減らしながらも仕事をするつもりでいますのでよろしく願っています。

第20回みずき研究大会
ののご案内
実行委員長 小松 利恵

今回の特別公演は四国霊場第三十一番札所・五台山竹林寺の海老塚和秀住職をお招きしご講演いただきます。札所寺院として数多の遍路人とふれあうとともに「祈り・学び・楽しみの中」として現代に開かれた寺の姿を求めて活動を続けておられます。

演題のテーマは「いのち、さきあう」です。「さきあう」とは「幸い」とも「咲き合う」とも言い、幸せとは自分ひとりで行き入れるのではなく、互いを思いやる人と人との関係性のなかに見いだすもの、という言葉だそうです。人は一人では生きていけないから、他の人と関わり合います。人との関わり合いは様々な悩みを生みます。私達の職業も毎日多くの人と接する仕事です。幸せとは何か、お互いを思いやる心とは、これまでに数え切れないほどの出逢いと触れ合いを経験されてきた海老塚住職の思いをお話していただきます。法人内外はもちろん、医療関係者以外の方々にも、多くの「ご来場をお待ちしています。」

第20回みずき研究大会が令和元年10月26日(土)にロイヤルホテル土佐において開催されます。



認定理学療法士について

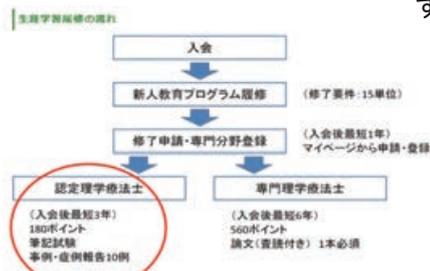
リハビリテーション部 認定理学療法士 小松 勝人

私が所属する公益社団法人日本理学療法士協会は、理学療法士によって構成される職能団体です。協会では生涯学習制度を運用しており、その中に認定理学療法士制度が組み込まれています。

認定理学療法士制度とは、自らの専門性を高め、高い専門的臨床技術の維持、社会、職能面における理学療法士の専門性(技術・スキル)を高めていくことを目指した制度です。7専門分野(基礎、神経、運動器、内部障害、生活環境支援、物理療法、教育・管理)のいずれかひとつ以上の専門分野に登録し、それぞれの分野から分かれた23領域(例えば、神経の分野には脳卒中・神経筋障害・脊髄障害・発達障害)の4領域がありますから選択し、認定理学療法士を目指します。学問的發展に寄与する研究能力を高めていくことを目的とした専門理学療法士もありませんが、今回は神経理学療法分野の発達障害領域の認定を取得しました。

認定取得までの流れは図に記載されている通りで、協会へ入

会後、新人教育プログラムを履修(約1年)することになります。その後専門分野に登録し2年後に受験可能となります。受験審査(筆記試験)の他に協会が運営する講習会への参加(1回10〜20ポイント)・学会発表(1回5ポイント)を行い、計180ポイントを取得すること、加えて10例の症例レポートを作成してポイント審査とレポート審査を受けることとなります。この3つの審査に合格をすることができ、認定を取得することができます。



私が受験した平成30年度認定理学療法士の受験者数は3473名、合格者は2987名でした。受験に向け過去の資料も入手し勉強を行いました。受験の

出題範囲はその年に開催された認定用研修会の内容となります。研修会では試験に出題されやすい項目を教示してくれましたし、過去に出題された内容も把握していたため、受験の出題範囲は網羅した自信がありました。しかし、受験当日、問題をみてみると過去出題されていない内容の問題が沢山あり、不合格かと心配していました。結果は合格。無事に認定理学療法士となることができました。これからは今まで以上に専門性に磨きをかけ、よりいっそう臨床に取り組みしていきたいと思っています。

過去に出題された内容も把握していたため、受験の出題範囲は網羅した自信がありました。しかし、受験当日、問題をみてみると過去出題されていない内容の問題が沢山あり、不合格かと心配していました。結果は合格。無事に認定理学療法士となることができました。これからは今まで以上に専門性に磨きをかけ、よりいっそう臨床に取り組みしていきたいと思っています。



多職種合同管理者研修を受講して

1階内科病棟主任 看護師 門脇 太郎

1階内科病棟で平成二十九年より主任をさせて頂いています。看護師の経験年数としては十四年目になり、中堅クラスになるのでしょうか。

今回の管理者合同研修は、多職種との連携を図りカンファレンス力を活用すること、また臨床実践の中でのマネジメント強化などの研修を行いました。マネジメントを行うには病棟スタッフの法的な視点による役割を理解することが重要だと話されていました。

その中で介護施設等での介護福祉士による吸引(気管内吸引は含まない)は高知県の登録を受けていること、そして研修を受けることで可能になることを知りました。臨床における看護管理者としての責任についてもいくつか言われており「状況によつてはケアの途中でも自らの判断をもとに速やかに医師の指示を仰ぎ、方法などを変更・中止して治療対象者にとって最も負担が少なく、最良な看護を提供すること」「准看護師への療養上の世話の指示を適切に行うこと」「看護補助者への看護補

助業務の指示と指導を適切に行うこと」など、管理者にとって気をつけなければならぬことを説明して頂きました。看護管理者として判断や指示、指導するには経験や知識も十分とは言いがくために積極的に先輩方に相談したり考えていく必要があると思いました。



グループワークでもマネジメント強化について話し合い、情報共有が大切であること、スタッフ個々にあった指導を行うこと、スタッフの不満に耳を傾けてコミュニケーションを増やし意見を聞いていくこと、危機管理の意識を高めていくことなど様々な意見を聞くことができました。今回の研修を受け、看護管理職としてマネジメントを意識し、毎日の業務の中でリーダーシップを発揮していきたいと思いました。

医療機器安全管理勉強会を行いました

医療機器安全管理責任者
診療放射線技師 廣地 祿代

去る8月20日(火)医薬品安全管理ならびに医療機器安全管理勉強会を行いました。これらは医療安全管理の中で「院内で使用される医薬品や医療機器に対する知識を深め、日常においての医療事故を少なくする」ことを目的として毎年行っています。

今回は7月の広島で受講した2019年度医療機器安全管理基礎講習会の内容も織り交ぜながら「院内の医療機器安全管理の現状とトラブル事例・対策」と題して研修を担当させていただきました。

よく言われる「安全」と「危険」。実は、安全⇄普通、危険⇄めつたにないこと、ではなく小さな見えない危険いっぱい毎日の中で「たまたま何も大きなミスにつながらなかつた貴重でラッキーな1日」が安全な1日であり、実は危険だらけの中で毎日業務を行っているんだ、という、少々変化球なところから話を始めていきました。

医療ミス、医療事故、これらは決して他人事ではありません。機械の操作ミスだけでなく機械の不具合でも簡単に人の命が危険にさらされてしまう場合があ



ります。「送信機の電池切れ」に気付かなかつたばかりに患者さんの急変に気付けなかつたという痛ましい事故が他県にて実際に起きている現状を踏まえ「機械の不具合」に気付くための目の配り方、そして「見ているつもりで見えていないこと」や「聞いているつもりで聞こえていない音」がいかに沢山あるか、実際に動画を見ながらの体験も行いました。

会場のあちこちから「うわー、見えてないわー」という悲鳴のような声が上がリ「見えなくなる、見ようとしなくなる死角」が実は日常業務に多く存在している。そこに気付くきっかけとなつたかなと思います。指さし確認などを丁寧、そしてそれが積み重なつての「安全な1日」になるよう努力していければと思います。

リレーエッセイ No.59 「47人の仲間と一緒に」

精神科デイケア 公認心理師 石丸 茂偉

私が芸西病院に就職したのが平成15年の4月。当時の所属長に「村で毎年こんな大会(体育会長杯ビーチボール大会)があるから出てみんか」と声をかけていただいたのがビーチボール大会との出会いでした。

気さくな先輩、可愛い後輩と、有難いことに私は人に恵まれ、また、色々な職種の方と仕事以外に交流を持つことができたのは、日頃の業務においても何かしらの繋がりを感ずることが多く、ビーチの活動を通して得られた副産物は私にとっての大きな財産となっています。

初めは仕事の気分転換にと、軽い気持ちで出場していましたが、通常のボールとは違い、『必ず3人で3回で相手コートに返す』というビーチ特有のルールにチームプレイの醍醐味を感じ、すっかりハマつてしまふことに。そして、「勝ちたい」「気持ちと大会以外にも定期的にビーチを」楽しみたい」という気持ちが次第に高まり、そんな2つの想いを実現すべく、法人内の他部署スタッフにも声をかけさせていただき、以来16年の間に47人の方(退職や家庭の事情等で継続できなくなった方もいます)が、このビーチに携わっていただいています。

また、昨年から村内に在住されている同級生で構成されたチームとも一緒に練習をさせていただくなど、地域の方とも交流を重ね、芸西村のビーチを盛り上げていく機会も得ることができました。何事も、やればできる。やらなければできない。実に簡単な法則です。

ほとんどにするのが苦手で、これと思うとガツとやってみようタイプなので、時に周りが見えにくくなり(汗)周囲にご迷惑をかけることもあります。

因みに肝心の成績はというと：入賞(3位以内)を目標に毎年挑戦し続けている中で、直近では昨年4位、一昨年5位、一昨昨年4位と強くも弱くもない何とも微妙な立ち位置ですが(笑)、6月に開催された今年の大大会も5位と終わってみれば安定のポジションに収まりました。「今年こそ!」「今年こそは...」と意気込むこの大会、どうやら来年も「今年こそ」で挑むこと

になりそうです。

あれから16年...今では年齢も40歳を過ぎ、身体の内側で悲鳴を上げていますが、家族の協力を始め、チーム皆の力を借りながらコートで汗を流せることに感謝し、たとえ若々しくはなくても生き生きとした選手でいたいと思います。



目標達成はならずも、今年も色々な事をコートで共有し、2年連続で『サンシャイン賞』を受賞しました。

これが公式球です。大会の要綱にも書かれていますが、「簡単に楽しめる」「ちょうどいい運動」と幅広い年代の方が参加されています。



当院から出場したもう1チームとの集合写真。こちらは2回目の出場でいとも簡単に入賞(3位)を果たしました(笑)。おめでとうございます!

やわらぎ通信

リゾートビルやわらぎ
運営理念

その人らしさを尊重し
人と人とのつながりを大切に
明日につなげるケアをめざす

「勤続40周年を迎えて」

総師長 桑原 久美子

私事で恐縮ですが去る7月24日に勤続40周年特別功労賞を授与させていただきました。

医療法人おくら会（前みずき会）は昭和53年7月に開院し、私はその年の10月に就職。昭和、平成、令和という3つの年号をまたいで勤めさせていただいていることになりました。



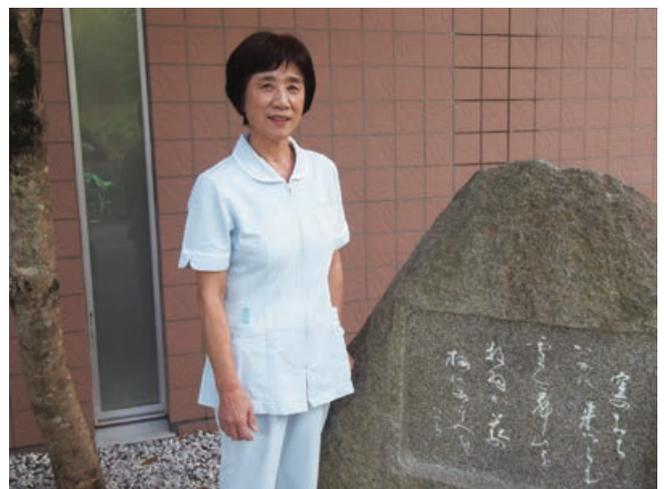
現在の法人には病院、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、グループホームなど医療・福祉の分野における施設が併設されていますが、私が就職した当時は法人の建物も病院だけで、未使用の病棟があるなど本当に開院したばかりで新しく、十字に立てられている病棟で迷子になりそうだった事を思い出します。思い返せば就職当時まだ若かった私は看護

師としての経験も浅く未熟で誇れるような看護観も持っておらず、良い看護師には程遠かったと感じています。しかし病院や現在の老健施設で勤務させていただく中で忘れられない看護工ピノードが数々あり、たくさんのお患者様、ご利用者様、ご家族様とふれあう中で喜びや悲しみを体験させていただきながら、少しは看護師として成長させていただいているのではないかと出会った方々に感謝しています。

一方で40年という歴史の中では、私的な事でもたくさんのお出来事があり、喜びも多かった反面苦しく悲しい経験もしてきました。しかし、この法人で諸先輩方のご指導を受け、また自身の家族や周囲にいる職場の皆さんに助けられたからこそここまで辿りつけたのではないかと思っています。そして今考えると人生に無駄な経験はなく、様々な経験をしたからこそ今の自分があるのだと思えるようになっていきます。

自分自身がこの長きにわたって務めさせていただいた法人に対し、何も貢献できていないことに申し訳なさもあります。今自分が与えられた職務を全うすることがせめての恩返しになればと考えています。

40年という長い年月を支えて下さった皆様本当にありがとうございました。



第21回高知県介護老人保健施設大会に参加して

通所リハビリテーション介護主任心得 入交 豊

6月30日に夜須マリンホールで行われた第21回高知県介護老人保健施設大会に参加しました。今回は、大会長が介護老人保健施設JAいなほ施設長島田良昭氏で、私は実行委員として企画検討から参加させていただきました。現在老健が抱える課題として、防災や在宅支援などがあげられましたが、東部地区で特に問題となっている人員確保についての研修にしようということで、大会のテーマが「生きがい これからの未来を地域と共に生きるに決まりました」。

当日の天候は大雨、駐車場係だった私は、カッパを着けていても足元からびしょぬれになり風邪をひきかけるというアクシデントにみまわれました。

大会は、特別講師としてお迎えした介護経営研究所代表の谷口公一氏の講義から始まり、介護施設の生産性の向上として、まずQC活動に取り組み業務の改善をすること、WLB(ワーク・ライフ・バランス)の取り組みを行う事などがあげられました。WLBとは「仕事と生活のバランス」仕事と生活の調和「個人が仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活等、生活全般の充実を図る事」でありそれに取り組むことで、職員の育成が進み、職員がその職場に定着し生産性が向上するというものです。QC活動は、業務改善に取り組みもので、仕事をより安全により楽によりスピーディーに、そしてより正確にする活動です。

次に行われたパネルディスカッションでは、高知県地域福祉部地域福祉対策課福祉介護人材対策室長の宮地通弘氏と公益財団法人介護労働安定センター支部長の大谷浩子氏の話聞かせてもらいました。高知県の現状としては、長寿で毎年出生率は低下し、若者に対して高齢者が多いという少子化が進んでいます。この現状に対して県では、医療や介護などのサービス提供を担う人材の確保に取り組んでいます。具体的には、福祉総合フェアを開催したり、介護事業所認定評価制度を行い良好な職場環境の整備によって職員の定着率の向上、イメージアップによる新たな人材確保を行っています。

「介護職は、働き甲斐がある」と働いている50%以上の人が思っており、人や社会の役に立ちたいという思いに答える仕事であると言っています。若い人たちにもそのことを知ってもらいもっと介護業界、高知県が盛り上がり上げていければと思います。

令和元年 高知学芸高等学校マンドリンコンサート

やわらぎ二階 介護福祉士 和田 徳夫

毎年恒例の高知学芸中高等学校のマンドリン部の皆様は8月23日に来所され、コンサートが開催されました。

演奏が始まると、ご利用者から自然と拍手が送られ「おお頑張れ」という声もあがりました。アンコールを含み全7曲の素晴らしい演奏でした。演奏後のご利用者、ご家族へのインタビューでは、「いい音色だった。」

「よく練習されていますね。素晴らしいかったです。」の言葉もいただくことができました。

マンドリン部の皆様、ありがとうございました。



6月 RT来所



9月 敬老会



6月 運動会



6月 すいか割り



無我夢中

29

やわらぎ1階 介護福祉士 高橋 拓海

私には無我夢中になっているものが複数あります。その中の1つがバイクでのツーリングで、アメリカン系が好きなためドラックスタ1400に乗っています。

バイクにすごく詳しい訳ではないですが、元々バイクで走る事が好きで原付バイクの時も愛媛や徳島まで走ったりしていました。2年前には、普通二輪免許取得し、気の合う仲間と走っています。

バイクに乗ると何も考えないでどこまでも走っていきけるし、春夏秋冬を肌で感じ、ストレスも発散できます。また、ツーリングの醍醐味として、行先での出会いがあります。バイクで来ている人に話しかけ、バイクの話で盛り上がり、ご当地のおいしい物などの情報をもらったりできます。

一方、免許を取得したばかりの頃怖い思いをした工ピノードとしては、地元の四国カルストに一人で走りにいき、帰りに荒れた県道に入りこんでしまい、タイヤが滑ってバイクの下敷きになったことがあります。その状態で3時間助けが来ませんでした。警察が駆けつけてくれたからやっと車が2台通った。それほど人里離れた所には一人でかけるものではないですね。バイク仲間にも語り継がれています。

これからも、どんどん自分に合った面白いことを見つけて無我夢中になりたいと思います。

